

「らくらく突破 気象予報士かんたん合格テキスト

学科一般知識編」正誤表

初版 第1刷

書籍の内容に誤りのあったことを、本書をお買いあげいただいた読者の皆様および関係者の方々に謹んでお詫びいたします。

(2019年8月7日更新)

P.30 上から12行目

誤	27 か月周期で
正	26 か月周期で

P.34 上から8行目

括弧の削除。

誤	($\times 10^{15}$)
正	$\times 10^{15}$

P.48 下から7行目

誤	$W [\text{g/kg}] = \frac{24\text{g}}{8\text{kg}}$
正	$W [\text{g/kg}] = \frac{24\text{g}}{(8\text{kg} - 24\text{g})}$

P.69 上から3行目

誤	増加割合
正	増加する割合

P.71 下から 2 行目

誤	質量 m
正	質量 m [kg]

P.72 下から 4 行目

誤	<p>質量 m[kg]は、水密度 ρ_w[kg/m³]×体積 V[m³]だから、</p> $m = \frac{4}{3} \pi r^3 \cdot \rho_w$ <p>ρ_w : 水滴の密度 10³[kg/m³]、m : 雨滴の質量[kg]、雨粒体積 : $\frac{4}{3} \pi r^3$[m³] より、</p>
正	<p>質量 m[kg]は、水滴密度 (雨) ρ_w[kg/m³]×水滴体積 (球とする) であり、 水滴密度 ρ_w : 10³[kg/m³]、雨粒質量 : [kg]、雨粒体積 : $\frac{4}{3} \pi r^3$[m³]より、 雨粒質量 $m = \frac{4}{3} \pi r^3 \cdot \rho_w$</p>

P.83 上から 9 行目の数式

正しい式は以下の通りです。

正	$k_s = \frac{2\pi^5}{3} n \left(\frac{m^2 - 1}{m^2 + 2} \right)^2 \frac{d^6}{\lambda^4}$
---	---

P.91 上から 2 行目

誤	両辺の πr^2 を消去し、
正	両辺の $\pi r e^2$ を消去し、

P.91 5行目の式の分子部分

誤	1.38 (1-0.3)
正	(1.38×10 ³) × (1-0.3)

P.99 上から5行目

誤	大気層放射
正	大気層からの放射

P.105 左側列：上から4行目から5行目

誤	水蒸分子
正	水蒸気分子

P.105 左側列：下から11行目

誤	2987
正	2897

P.105 問4 解答解説：放射強度の式中

誤	2987
正	2897

P.111 上から13行目

誤	単位面積に与える力の積となります。
正	単位面積に与える力の和となります。

P.113 上から 2 行目の式

誤	(K は比例定数。温度 T は一定)
正	(K は比例定数で一定)

P.120 2 アボガドロの法則：上から 1 行目

誤	$n = RV / RT$
正	$n = \frac{PV}{RT}$

P.121 3 普遍気体定数：上から 4 行目

誤	$(RV / T = K)$
正	$\frac{PV}{T} = K$

P.121 3 普遍気体定数：上から 6 行目

誤	$K = RV / T$
正	$K = \frac{PV}{T}$

P.121 3 普遍気体定数：上から 4 行目

誤	$V: 22400\text{m}^3 = 2.24 \times 10^1\text{m}^3$
正	$V: 22400\ell = 2.24 \times 10^1[\text{m}^3]$

P.122 下から 6 行目の式 (分母、分子とも)

誤	Kmol
正	kmol

P.125 下から 8 行目

誤	圧縮では空気塊の
正	膨張 では空気塊の

P.130 上から 9 行目の式 (分子側)

誤	$\frac{-5 \times 10^{-1} \text{Pa}}{10 \text{Pa} \cdot \text{m}^{-1}}$
正	$\frac{-5 \text{Pa}}{10 \text{Pa} \cdot \text{m}^{-1}}$

P.131 上から 2 行目

誤	シネックス
正	シックネス

P.131 の式② (層厚の式 2)

誤	$\Delta z = -\frac{RT}{g} \times \ln \frac{P_1}{P_2}$
正	$\Delta z = -\frac{RT_m}{g} \times \ln \frac{P_1}{P_2}$

P.131 下から 8 行目

誤	湿潤空気 T
正	湿潤空気の温度 T(K)

P.132 上から 2 行目の式 (分子側)

誤	$\frac{RTm}{g}$
正	$\frac{RT}{g}$

P.132 上から 7 行目

誤	$\ln A - \ln B$
正	$\ln A - \ln B$ 、観測データ：現地気圧を 990hPa、海面気圧を 996hPa。

P.132 上から 11 行目の式 (分母側)

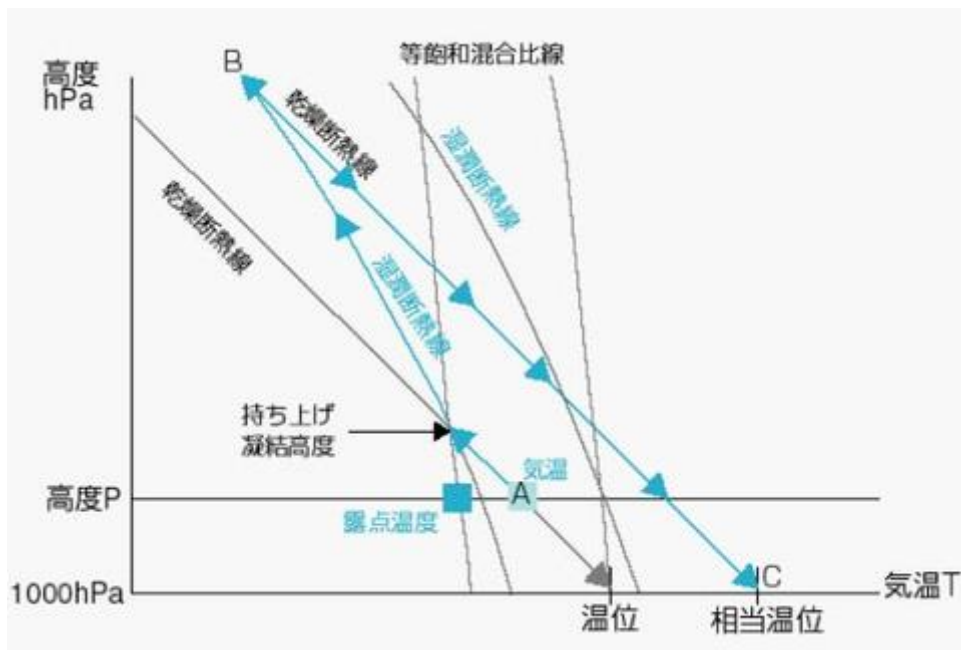
誤	$\frac{287\text{m}^2 \cdot \text{K}^{-1} \cdot \text{S}^{-2}}{10\text{s}^{-2}}$
正	$\frac{287\text{m}^2 \cdot \text{K}^{-1} \cdot \text{S}^{-2}}{10\text{ms}^{-2}}$

P.143 下から 5 行目

誤	特に水蒸量の増減が
正	特に水蒸気量の増減が

P.143 図 6-12

図 6-12 の露点温度の右に下からのびる青色の矢印野線が間違っていました。正しくは、気温 A から持ち上げ凝結高度に向かってのびます。訂正した図を次に掲載します。



P.166 上から 1 行目

誤	$\frac{2\pi}{360\text{rad}}$
正	$\frac{2\pi \text{ rad}}{360}$

P.167 下から 6 行目

誤	$1\text{hPa/km} = 100\text{Pa} = [\text{kg} \cdot \text{m}]$
正	$1\text{hPa/km} = 100\text{Pa} / 1000\text{m} = 100[\text{kg} \cdot \text{m}]$

P.168 上から 1 行目

誤	面 A に働く圧力
正	面 A に働く力

P.168 上から 3 行目

誤	面 B に働く圧力
正	面 B に働く力

P.169 上から 1 行目の式：右辺 1 項部分

1/ρ であるため，[kgm⁻³]は，分子ではなく，分母に来ます。

誤	$P_n = -\frac{1}{\rho} [\text{kgm}^{-3}] \times$
正	$P_n = -\frac{1}{\rho [\text{kgm}^{-3}]} \times$

P.170 上から 14 行目

誤	陸上で 30°~40°
正	陸上で 30°~45°

P.171 上から 4 行目

誤	P [Pha]
正	P [hPa]

P.172 上から 8 行目と本文下から 5 行目

誤	ジオポテンショナル
正	ジオポテンシャル

P.174 本文下から 9 行目の見出し

誤	気圧傾度が等しければ高緯度ほど風速が大きくなる
正	気圧傾度が等しければ高緯度ほど風速が小さくなる

P.175 中段の計算過程

以下のように差し替えてください。

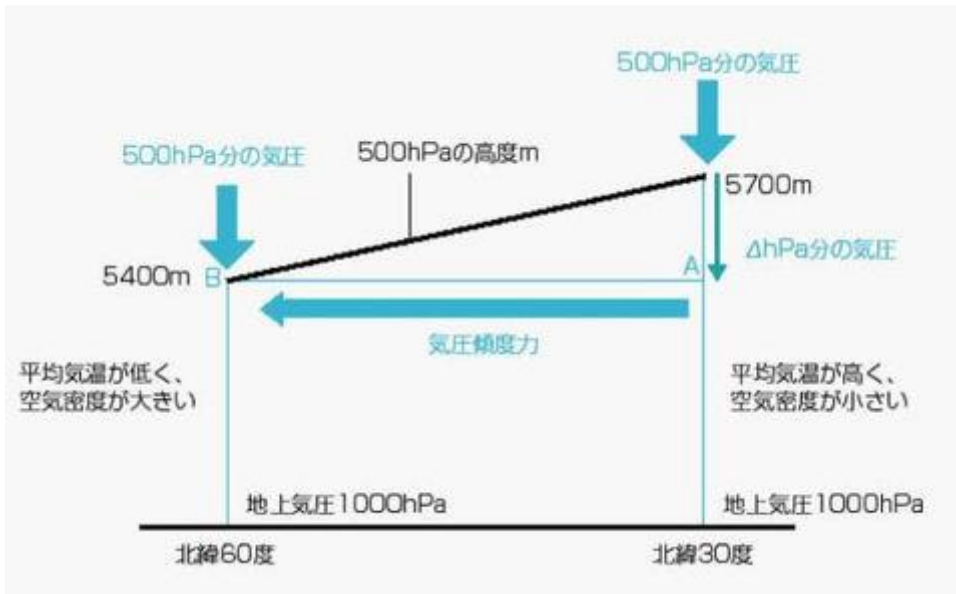
地衡風の式: $V = (-g/f) \times (\Delta Z / \Delta n)$ より、

$$\begin{aligned} V &= (-g/f) \times (\Delta Z / \Delta n) \\ &= \frac{-9.8[\text{ms}^{-2}] \times (5200 - 5700)[\text{m}]}{2 \times 7.3 \times 10^{-5}[\text{s}^{-1}] \times \sin 45^\circ \times 1100 \times 1000[\text{m}]} \\ &= (9.8 \times 500 \times \sqrt{2}) / (2 \times 7.3 \times 11 \times 10^{-5+5}) \\ &= (9.8 \times 500 \times 1.414) / (2 \times 7.3 \times 11 \times 10^0) \\ &= 43.14 \dots \approx 43[\text{ms}^{-1}] \end{aligned}$$

備考 10^0 は 1

P.177 図 7-10

図 7-10 の右側の高度が 5400m となっていますが、正しくは 5700m でした。
訂正した図を次に掲載します。



P.179 上から 3 行目

誤	高気圧性、低気圧性とも 1 つの式でまとめると、
正	低気圧性循環と気圧傾度力をまとめると、

P.180 最上行の式

誤	$f r^2$
正	$(f r)^2$

P.181 上から 2 行目と 4 行目

誤	低気圧傾度風
正	低気圧性傾度風

P.181 上から 9 行目

誤	あたかも図 7-11 のように
正	あたかも図 7-12 のように

P.181 上から 11 行目

誤	図 7-11 とは異なっています。
正	図 7-12 とは異なっています。

P.189 図 7-18

誤	300hPa と 500hPa の
正	300hPa と 700hPa の

P.204 の③の式

誤	$\frac{\Delta v}{\Delta y} = -\frac{2V - 2V}{H} = -\frac{4V}{H}$
正	$\frac{\Delta v}{\Delta y} = \frac{-2V - 2V}{H} = -\frac{4V}{H}$

P.212 問題 3 : 問題文 2 行目

誤	10km 離れた
正	100km 離れた

P.219 問 5 の解答 1 行目

誤	「地衡風速 V の式 (P 座標系)」
正	「地衡風速 V の式 (Z 座標系)」

P.219 問 5 の解答 10 行目

誤	「地衡風速 V_g の式 (P 座標系)」
正	「地衡風速 V_g の式 (Z 座標系)」

P.224 上から 9 行目

誤	温度差が無限に大きくなることを防いでいます。
正	温度差が 大きくなることを防いでいます。

P.240 上から 5 行目

誤	エネルギーもちます
正	エネルギー を もちます

P.241 下から 1 行目

誤	下図のように両矢印上の地点における水平温度移流量を求めなさい。
正	次図のように両矢印上の地点における水平温度移流量 $^{\circ}\text{C}/\text{h}$ および移流の判断をせよ。

P.242 イの場合の計算過程：式 3 行目

誤	$\sqrt{\frac{3}{2}}$
正	$\frac{\sqrt{3}}{2}$

P.244 上から 10 行目

誤	40km 程度
正	40km/h 程度

P.262 上から 2 行目

誤	日本では起状が多い
正	日本では起 伏 が多い

P.266 本文上段 4 行

以下の文章に差し替えてください。

台風内高度 1.5～3km 以上の自由大気では，気圧傾度力とコリオリ力と遠心力の 3 つが バランスして吹いています。しかし，前述の高度未満の地表面付近の大気は，地表面 摩擦力の影響が加わり下層ほどその影響が強くなり風が弱くなります。

P.275 下から 4 行目

誤	絶対温度
正	絶対 湿 度

P.296 上段枠内 および

P297 3 ケルビン・ヘルムホルツ波：上から 2 行目・5 行目

誤	ケルビン・ホルムヘルツ波
正	ケルビン・ ヘルムホルツ 波

P.297 上から 9 行目

誤	一般場の運動エネルギー
正	一般 風 の運動エネルギー

P.325 下から 8 行目

誤	防災__2__計画は地方公共団体
正	__2__ 防災計画 は地方公共団体

P.365 上から 9 行目

誤	$\frac{V}{M}$
正	$\frac{M}{V}$

技術評論社 書籍編集部